

公衆衛生看護学を教授する教員のキャリアラダー

作成の経緯

1. 平成 27(2015)～30(2018)年度の中期目標 B「教員の質向上」に向けて、平成 26 年度からの検討内容も踏まえて、平成 27 年度より中期計画「公衆衛生看護学を教授する教員像の明確化とキャリアラダーを構築する」活動を行うこととなった。
2. 平成 27 年度は、11 月 3 日の秋季研修（テーマ 公衆衛生看護学教員の力量形成に向けて）において前教員研修委員会委員長 安齋 由貴 子宮城大学教授による講演「公衆衛生看護学教員のキャリアラダー」と、それを受けたグループワーク「公衆衛生看護学教員のキャリアラダーを考える」が行われ、この時の記録（会員校の意見）をキャリアラダー（以下ラダー）作成に反映することとなった。
3. 平成 28 年度 7 月 11 日に教員研修委員会にラダー構築班（和泉比佐子、岡本玲子）（以下ラダー班）が設置され、小西かおる委員長より 1・2 の説明、および次年度の総会でラダーの承認を得るよう進めること、ラダーが次年度からの新教員研修体制の土台になることについて説明を受け、ラダー案作成が開始された。この際、岡本よりラダー構築における構成要素（グレード、役割、必須の仕事経験、求められる能力、必須習得の学位、必須習得の研修、経験年数の目安等）が示され、それらを枠組みとして作成することが確認された。
4. 同年 8 月 3 日にラダー班より委員長にラダー案を送付、5 日に委員長よりそれが研修企画班（北岡英子、蔭山正子）に送付され、その後オブザーバー（荒木田美香子副会長）も含み、5-8 日にかけてメールで意見交換した。
5. 9-12 日にかけてラダー班にてこの修正版を作成し、4 のメンバーに送付、20 日までの意見を反映し理事会資料とした。
6. 8 月の理事会では経過と内容が説明され、意見については別途 9 月 11 日までに文書にて集約することとなり、その意見を反映した修正版をラダー班が作成し、11 月および 2 月に理事会で検討し、承認された。

【公衆衛生看護学を教授する望ましい教員像】（教員とは保健師課程専任教員を指す。）

社会的公正を行為の規範とし、学生のモデルとなる豊かな人間性を備え

1. 公衆衛生看護の原則・価値を継承しうる知識・技術を持ち更新・提供し続ける教育者
2. 公衆衛生看護学を開発・発展しうる研究能力を持ち更新・実践し続ける研究者

【教育者としてのラダー】

レベル	レベル1A	レベル1B	レベル2	レベル3A	レベル3B
役割・責任	授業:単発試行・補佐 実習:継続的指導下	授業:単元責任 実習:頻回指導下	授業:科目責任 実習:時々指導下・自立	授業:複数科目責任 実習:自立・指導	授業:カリキュラム責任 実習:開発・自立・指導
必須の仕事経験	授業単発試行経験 自分の教育評価研究	授業単元責任遂行経験 単元の教育評価研究	授業科目責任遂行経験 科目の教育評価研究	科目の教育評価研究 継続指導経験	カリキュラム開発・管理経験 カリキュラム評価研究
必須の研修(教育力)	教育学/FD/専門 基礎研修	教育学/FD/専門 初級研修	教育学/FD/専門 中級研修	教育学/FD/専門 上級研修	教育学/FD/専門 ベテラン研修
求められる資格・学位	学士・修士	修士	博士	博士	博士
必要経験年数(目安)	0年～2年	1年～5年			
<p>求められる能力(知識・技術) 教員としての基本姿勢・資質</p> <p style="text-align: right;">※それぞれ左の下位ラダーに積み上げる内容として書いている。</p>					
公衆衛生看護の原則・価値を継承する	公衆衛生看護の原則・価値を継承する意義を理解し、その概要を説明できる	公衆衛生看護の原則・価値を具体的事例で説明できる	公衆衛生看護の原則・価値を歴史的背景とともに具体的事例で説明できる	公衆衛生看護の原則・価値および継承する意義を教授することができる	公衆衛生看護の原則・価値を体系的に継承する体制を整備・推進できる
保健師プロフェッショナルおよび保健師教育の専任教員としての知識・技術を持つ	保健師および教育者として基本的な知識と技術を有し、さらなる向上を目指して主体的に自己研鑽できる	知識と技術の維持・向上に努め、担当する授業等についてより包括的かつ詳細に探求できる	担当する授業等について包括的かつ詳細な知識と技術を有し、さらに応用可能な学問を探求できる	専門的で応用の効く知識・技術と体系的理解を有し、自律して最先端の内容に更新できる。またそれを他の教員に指導できる	本質的な部分について非常に深く体系的に理解しており、自律して最先端の内容を開発・公表できる。またそれを他の教員に指導できる
公衆衛生看護における倫理を遵守する	公衆衛生看護活動および教育における倫理的な問題について概要を説明できる	倫理的な問題について具体例を挙げて、その背景や考え方を多面的に示すことができる	多様な場における倫理的な問題と、個人の責任と組織の責任、および対処法を説明できる	倫理的問題に気づき、解決の手だてを考案するために他の教員とともに行動できる	倫理的問題について分析し対処するとともに、組織として対応する体制を整備・推進できる
カリキュラム編成					
関連する諸制度(指定規則含む)や専門能力枠組みを踏まえる	関連する諸制度や専門能力枠組みについて説明できる	看護教育における一般的なカリキュラム編成の方法について説明できる	関連する諸制度や専門能力枠組みを踏まえたカリキュラム編成の方法を検討できる	関連する諸制度や専門能力枠組みを踏まえてカリキュラムを編成できる	学生の到達度に基づき、経年的にカリキュラム編成を評価し、時代に応じてカリキュラム編成を改訂できる

一社) 全国保健師教育機関協議会 教員研修委員会 ラダー構築班作成 教員のキャリアラダー2016年度版

高等教育枠組みを踏まえる	公衆衛生看護学の基礎的な概念や原理の知識に基づいてカリキュラムを解釈できる	クリティカルな視点を持ってカリキュラムを評価できる	公衆衛生看護学の体系的な理解に基づいてカリキュラムを評価できる。	包括的かつ最新の知識を応用してカリキュラムを改訂できる	最先端をさらに広げる独創性をもってカリキュラムを創造できる
所属する教育機関の教育理念・ポリシーに準ずる	所属する教育機関の教育理念、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを説明できる	現在の所属機関のカリキュラム編成が教育理念とポリシーに準じているかどうかを説明できる	教育理念とポリシーに準じたカリキュラム編成への改訂を提案できる	教育理念とポリシーに準じたカリキュラム編成に改訂し、所属機関の承認を得られる	時代の変遷に応じて教育理念、ポリシー、カリキュラム編成を評価し、適正に改訂できる
授業展開					
学習目標と授業計画の立案(ミニマムリクワイアメントに到達する)、授業の組織化	担当する授業について前後の授業の流れを踏まえて学習目標と授業計画を立案できる	担当する単元について教育の順序性を考え学習目標と授業計画を立案できる	担当する科目について他科目との順序性を考え学習目標と授業計画を立案できる	カリキュラム全体の順序性や学習目標に至る授業内容の点検と修正の支援ができる	看護師課程・保健師課程のカリキュラム全体の順序性や学習目標に至る内容の点検と、組織的に改訂を推進できる
効果的な授業の内容と方法講義・演習・教材開発	担当する授業について効果的な授業の内容と方法で構成し実施できる	担当する単元について効果的な授業の内容と方法で構成し実施できる	担当する科目について効果的な授業の内容と方法で構成し実施できる	カリキュラム全体の効果的な授業展開の点検と修正の支援ができる	先駆的な授業の内容と方法を学習あるいは開発し、教員間で検討しカリキュラムに適用できる
学生の能力査定と効果的な学習支援	担当する授業について学生の能力査定を行い、効果的な学習支援方法を選択し実施できる	担当する単元について学生の能力査定を行い、効果的な学習支援方法を選択し実施できる	担当する科目について学生の能力査定を行い、効果的な学習支援方法を選択し実施できる	学生の能力査定と学習支援方法の課題を明確化し、修正の方向性を検討・支援できる	学生の能力査定と効果的な学習支援方法を開発し、教員間で検討し組織的に適用できる
授業における学習成果(ラーニングアウトカム)の評価教育評価	担当する授業について学生の学習成果を評価し、到達度の低い内容について授業計画を修正できる	担当する単元について学生の学習成果を評価し、到達度の低い内容について授業計画を修正できる	担当する科目について学生の学習成果を評価し、到達度の低い内容について授業計画を修正できる	学習成果の評価方法の課題を明確化し、修正の方向性を検討・支援できる	学習成果の効果的な評価方法を開発し、教員間で検討し組織的に適用できる
実習展開					
実習目標と指導計画の立案(ミニマムリクワイアメントに到達する)	担当した実習グループの学生が実習目標に到達するための指導計画(週案)	実習目標に到達するための指導計画について実習グループ間に格差がない	実習目標と指導計画の課題について意見を述べ、教員間で改訂の方向	学生全員が目指す実習目標と標準的な指導計画を立案し、教員間で共有でき	実習目標と指導計画について国内外の先駆的取り組みと比較検討し、改善点を明

一社) 全国保健師教育機関協議会 教員研修委員会 ラダー構築班作成 教員のキャリアラダー2016年度版

	を作成できる	かを点検し、調整できる	性を協議できる	る	確化し、組織的に改訂を推進できる
学生の実践能力査定と効果的な学習支援	学生の実践能力を査定する方法、その結果に基づく効果的な学習支援方法について概要を説明できる	担当実習グループの学生の実践能力を査定し、その結果に基づいて効果的な学習支援方法を選択し実施できる	学生の実践能力を査定する方法と、その結果に基づいて効果的に学習支援を行う方法の課題について意見を述べ、改訂の方向性を協議できる	学生の実践能力を査定する方法と、その結果に基づいて効果的に学習支援を行う方法を明確にし、教員間で共有できる	学生の実践能力の査定、および効果的な学習支援方法について最新の知見を収集し、教育への適用を吟味し、組織的に改訂を推進できる
実習における学習成果の評価	実習における学生の学習成果の評価方法について説明でき、指導の下で評価できる	担当した実習グループの学生の学習成果を評価できる	全実習グループの学生の学習成果の評価をまとめ、課題を教員間で共有できる	学生の学習成果の評価結果に基づいて、実習指導の内容と方法、体制、実習施設・指導者との協働等の課題別に改善の方向性を検討できる	ミニマムリクワイアメンツに至る学習成果創出に向けた実習の在り方について多角的に検討し、改善策を組織的に推進できる
実習指導体制と実習指導者教員間(以下指導者間)の関係の構築、協働	実習施設との打ち合わせにおいて実習指導体制と互いの役割を確認し指導者間の関係を構築できる	実習期間を通して学生の到達度等に関する指導者間の情報交換を密にし、課題に即座に対応できる	実習前に実習指導体制と指導者間の協働に関する事項を文書化し、教員間で協議のうえ共有できる	実習前に同じ都道府県内の各校の状況を把握し、調整を要することに対応できる	先駆的取り組みや最新の知見を取り入れ、実習指導体制の整備と指導者間の協働の改善に向けてリーダーシップをとれる
実習における学習環境の整備(実習地の開拓を含む)	実習施設との打ち合わせにおいて実習における学習環境の整備について協議できる	実習期間を通して学生の学習環境に関する課題を把握し、指導者に交渉・調整できる 必要物品を把握し購入できる	実習前に実習環境の整備に関する事項を文書化し、教員間で協議のうえ共有できる	実習前に同じ都道府県内の各校の状況を把握し、調整を要することに対応できる 必要物品を予算化できる	先駆的取り組みや最新の知見より、適切な実習施設について吟味し、必要に応じて開拓できる

【研究者としてのラダー】

- 研究についてのラダーは全国保健師教育機関協議会の会員校の構成から考えてレベル1A・レベル1B・レベル2を活用していただくことを前提に作成している。しかし、世界水準の研究を使命とする研究大学や大規模研究を行うことが推進される現状があり、レベル3も設けている。また、大学院を設置する大学の割合の増加により、他者への研究指導については、大学院生への研究指導に関するラダーも含んでいる。そのため、各会員校の実情に合わせて活用していただきたい。
- 求められる能力はそれぞれ左の下位ラダーに積み上げる内容であるため、下位レベルで能力の習得が必要とされる項目では上位ラダーを空欄となっている。

レベル	レベル1A	レベル1B	レベル2	レベル3
役割・責任	分担者として研究指導のもとで研究	分担者として研究 代表者として研究	代表者として研究	プロジェクトの総括 研究費審査
必須の仕事経験	同一機関内の共同研究 個人研究	個人研究 同一機関内の共同研究	公衆衛生看護実践者との共同研究 他研究機関との共同研究	他分野・多研究機関との共同研究 他分野・多機関・諸外国との共同研究
必須の研修 (研究能力)	研究の基礎研修 研究費獲得基礎研修	初級研修 研究費獲得初級研修	中級研修 研究費獲得研修	上級研修 大型研究費獲得研修 研究費審査者研修
求められる資格・学位	学士・修士	修士	修士・博士	博士
必要経験年数(目安)	0年～3年	1年～5年		
研究者としての基本姿勢				
公衆衛生看護学の研究において人を対象とする医学研究の倫理指針を遵守し、主体的に公衆衛生看護学および実践の発展やコミュニティの課題解決のためのアプローチを探求しつづける推進力をもつ	左記の研究者としての基本姿勢を理解し、指導のもと研究遂行し、共同研究においてメンバーシップを発揮できる	左記の研究者としての基本姿勢をもち研究遂行し、共同研究においてメンバーシップを発揮できる	左記の研究者としての基本姿勢をもち研究遂行し、研究メンバーに基本姿勢を示すことができる	左記の研究者としての基本姿勢をもち研究遂行し、プロジェクトにおいて他の研究者の基本姿勢の醸成ができる

	レベル	レベル1A	レベル1B	レベル2	レベル3
求められる能力 (知識・技術)					
Plan 研究 計画	公衆衛生看護に関する研究問題を検討できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を研究的な視点で検討できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を研究的かつ多角的な視点で検討できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を研究問題として多角的な視点から検討できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を研究問題として多面的・多角的な視点から検討できる
	公衆衛生看護に関する研究設問(リサーチ・クエスチョン)を設定できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を研究設問として設定できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を独自性の高い研究設問として設定できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を実践者や他の研究者との共同の研究設問として設定できる	公衆衛生看護の実践やコミュニティの問題を実践者や他分野・多機関の研究者との共同の研究設問として設定できる
	研究設問(リサーチ・クエスチョン)に応じた研究方法と対象の選択および倫理的配慮を検討した計画書を作成できる	指導のもと研究設問に応じた研究方法と対象の選択および倫理的配慮を検討した計画書を作成できる	研究設問に応じた研究方法と対象の選択および、倫理的配慮を検討した計画書を作成できる	研究設問に応じた研究方法と対象の選択および、倫理的配慮を検討した計画書を実践者や他の研究者と共同で作成できる	
	公衆衛生看護の研究のためのフィールド調整ができる	指導のもと、研究フィールドとしての自治体等との調整ができる	研究フィールドとしての自治体等との調整ができる	自治体等との共同研究のフィールドの調整ができる	広域的な公衆衛生看護実践の場を研究フィールドとして確保できる
	他者の研究計画の指導ができる	指導のもと保健師基礎教育における卒業研究計画、公衆衛生看護実践者等の研究計画の指導ができる	保健師基礎教育における卒業研究計画、公衆衛生実践者等の研究計画の指導ができる 指導のもと大学院前期課程の研究計画の指導ができる	大学院前期課程の研究計画の指導ができる 指導のもと大学院後期課程の研究計画の指導ができる	大学院前期・後期課程の研究計画の指導研究計画のクリティークができる
Do 研究 遂行	研究計画に基づきデータ収集できる	指導のもと研究計画に基づきデータ収集できる	研究計画に基づきデータ収集できる	研究計画に基づいたデータ収集について共同研究者の支援ができる	プロジェクトの研究計画に基づいたデータ収集について他の研究者の支援ができる
	収集したデータを適切に処理し、分析できる	指導のもと収集したデータを処理し、データに応じて分析できる	収集したデータを適切に処理し、データに応じて分析できる	収集したデータを適切に処理し、データに応じて多角的に分析できる	プロジェクトにおけるデータ分析について集約し、他の研究者のデータ分析の支援ができる
	研究の成果をまとめることができる	指導のもと研究の成果をまとめることができる	研究の成果をまとめることができる	研究の成果を集約しまとめることができる	研究の成果のまとめを集約し、総合的なまとめができる

一社) 全国保健師教育機関協議会 教員研修委員会 ラダー構築班作成 教員のキャリアラダー2016年度版

	研究成果を公衆衛生看護の実践と照らし合わせて意味づけすることができる	指導のもと研究成果を公衆衛生の実践と照らし合わせて検討できる	研究成果を公衆衛生看護の実践や理論と照らし合わせて検討できる	研究成果を公衆衛生看護の実践や理論と照らし合わせて意味づけすることができる	研究成果について多面的・多角的な視点から意味づけができる
	研究遂行において倫理的な問題に対処できる	指導のもと研究遂行において倫理的な問題に対処できる	研究遂行において倫理的な問題に対処できる		研究遂行における倫理的な問題への対処について他の研究者の支援ができる
	研究遂行の管理ができる	指導のもと研究遂行のための時間・物品の管理と費用の運用ができる	研究遂行のための人・時間・物品の管理と費用の運用ができる	研究遂行のための人・時間・物品・費用の全体管理ができる	多機関における研究遂行のための人・時間・物品・費用の全体管理ができる
	他者の研究遂行の指導ができる	指導のもと保健師基礎教育における卒業研究、公衆衛生看護実践者等の研究遂行の指導ができる	保健師基礎教育における卒業研究、公衆衛生看護実践者等の研究遂行の指導ができる 指導のもと大学院前期課程の研究遂行の指導ができる	大学院前期課程の研究遂行の指導ができる 指導のもと大学院後期課程の研究遂行の指導ができる	大学院前期・後期課程の研究遂行の指導ができる
Check 研究の 評価	研究計画を評価できる	研究計画が適切であったか検討できる	研究設問に合致した研究計画であったか評価できる	公衆衛生看護実践に役立つ研究計画であったか評価できる	多角的な視点から研究計画を評価できる
	研究遂行のプロセスを評価できる	研究遂行のプロセスが適切であったか検討できる	研究遂行のプロセスが適切であったのか評価できる	公衆衛生看護実践者と共同した研究遂行のプロセスが適切であったのか評価できる	他の研究者と共同で多角的な視点から研究遂行のプロセスを評価できる
	研究の限界を明確にできる	指導のもと研究の限界を明確にできる	研究の限界を明確にできる		
	研究成果を公衆衛生看護実践に応用できる	公衆衛生看護実践に研究成果を応用するための検討ができる	公衆衛生看護実践に研究成果を応用するための自治体等への提案ができる	研究成果を実践に応用するための公衆衛生看護実践者等への支援ができる	公衆衛生看護実践に研究成果を応用または、普及させるための提言ができる
	研究成果を公表できる	指導のもと国内外の学会等で公表できる	指導のもと国内外の学術誌等で研究成果を公表できる	国内外の学会・学術誌等で公表できる	学会・学術誌、研究会等、研究成果を公表できる場を主催できる
	他者の研究成果の公表を指導できる	指導のもと保健師基礎教育における卒業研究、公衆衛生看護実践者等の公	保健師基礎教育における卒業研究、公衆衛生看護実践者等の公表の指導ができる	大学院前期課程の研究成果の公表の指導ができる 指導のもと大学院後期課程の研究	大学院前期・後期課程の研究成果の公表の指導ができる

		表の指導ができる	指導のもと大学院前期課程の研究 成果の公表の指導ができる	成果の公表の指導ができる	
Act 研究の 改善	研究計画の問題点を明らかにし、修正できる	指導のもと研究計画の問題点を明らかにし、修正できる	研究計画の問題点を明らかにし、修正できる	研究計画の問題点を他の研究者と共同で検討し、修正できる	研究計画の問題点の修正について他の研究者を支援できる
	研究遂行のプロセスにおいて修正ができる	指導のもと研究遂行のプロセスにおいて修正ができる	研究遂行のプロセスにおいて修正ができる		研究遂行のプロセスにおける修正について他の研究者を支援できる
	研究の限界への対処方法を明確にできる	指導のもと研究の限界への対処方法を明確にできる	研究の限界への対処方法を明確にできる		研究の限界への対処方法の明確化について他の研究者への支援ができる

参考文献

- 厚生労働省, 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～, 平成 28 年 3 月 31 日.
 中央教育審議会, 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申), 平成 23 年1月 31 日.
 金井壽宏, 働くひとのためのキャリア・デザイン, PHP 新書 187, 2002.
 J・フィッツジェラルド著, 筒井美紀・阿部真大・居郷至伸訳, キャリアラダーとは何かーアメリカにおける地域と企業の戦略転換ー, 勁草書房, 2008.
 イギリスの Skills for Health の公衆衛生のキャリアパス (<http://www.skillsforhealth.org.uk/career-framework/?sec=cf&id=2>)
 岡本玲子, 合田加代子, 鳩野洋子ほか(2009): 英国に探る「保健師教育の質保証」～住民の健康と安全を護る実践能力の土台を築くために～
 その1 保健師教育課程の実際例. 公衆衛生情報, 11・12 月合併号, 39(9), 24-29.
 その2 「高等教育枠組み」と保健師教育. 公衆衛生情報 1 月号. 39(10), 46-50.
 その3 実習指導者の質保証. 公衆衛生情報 2・3 月合併号, 39(11), 38-43.
 岡本玲子(2010): イギリスにおける保健師教育の現状-卒前・卒後教育. 公衆衛生, 74(7), 571-575.
 井村直恵(2009)、理系研究者の「研究能力」の構造とキャリア・ダイナミズム、京都産業大学教職研究紀要、第 04 号、41-55.